

保育者の皆さまへ

保育環境における 突然死を防ぐために



Master Works 2017.v2

プログラムの目的

保育中の死亡がいつ、どのように
起きているか？

そして、リスクを減少させる方法を
知ることです。



あらすじ

1. 誰が？ いつ？
2. なぜ？
3. 突然死防止のために



あらすじ

1. 誰が？ いつ？

2. なぜ？

3. 突然死防止のために

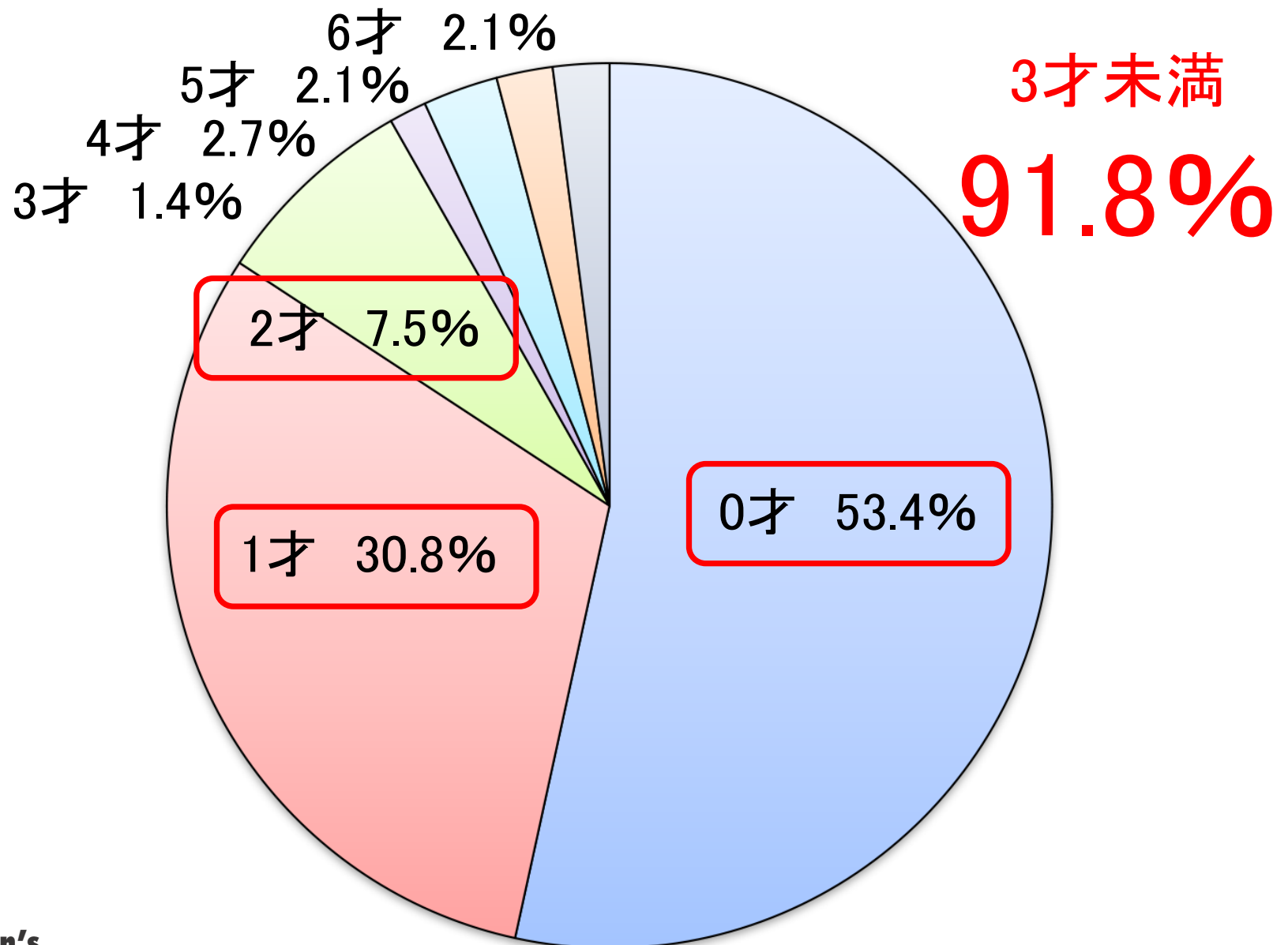


1. 誰が？ いつ？



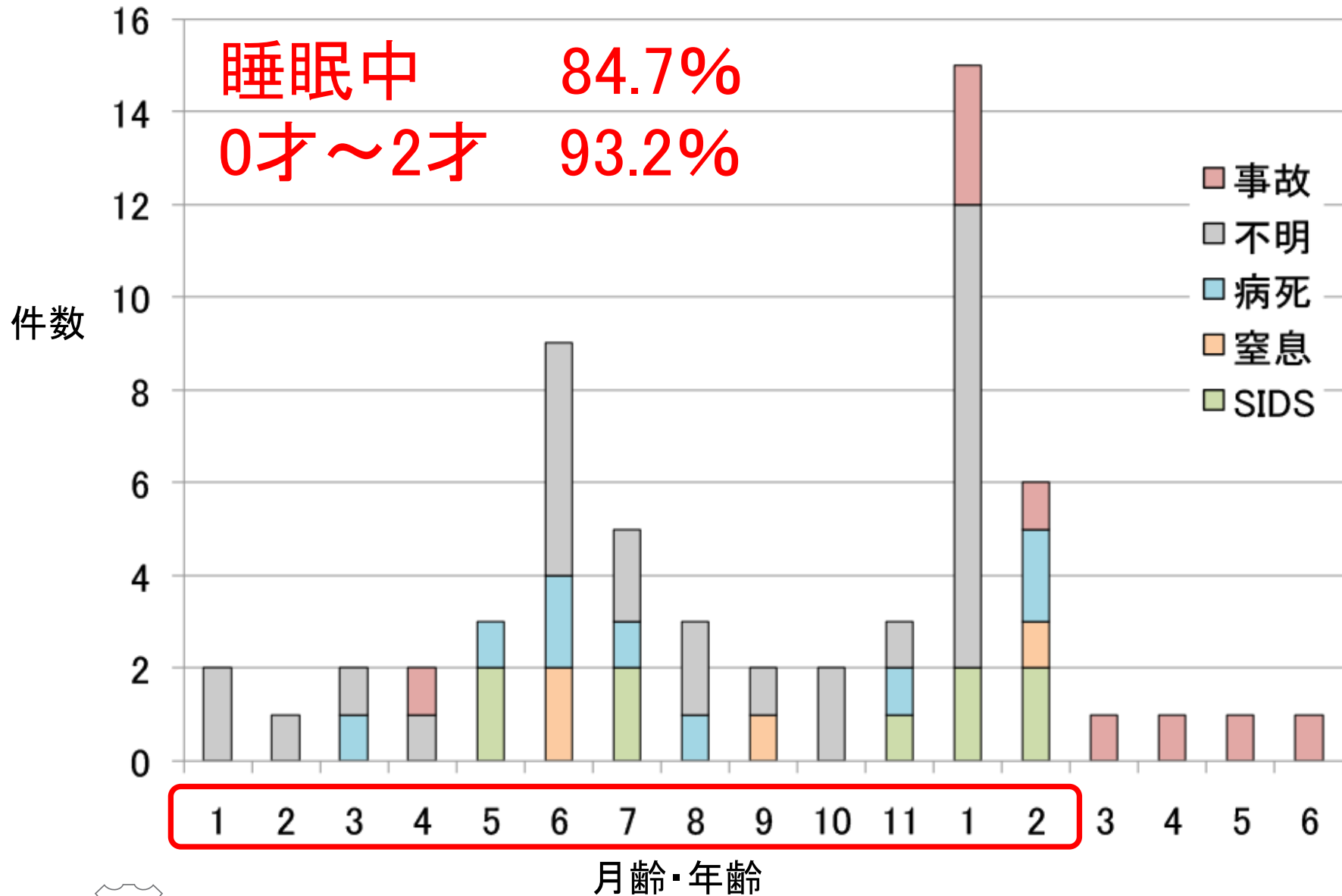
保育施設における死亡

2007年～2016年 146人



保育施設における死亡

2008年～2012年 59件



1. 誰が？ いつ？



あらすじ

1. 誰が？ いつ？

2. なぜ？

3. 突然死防止のために

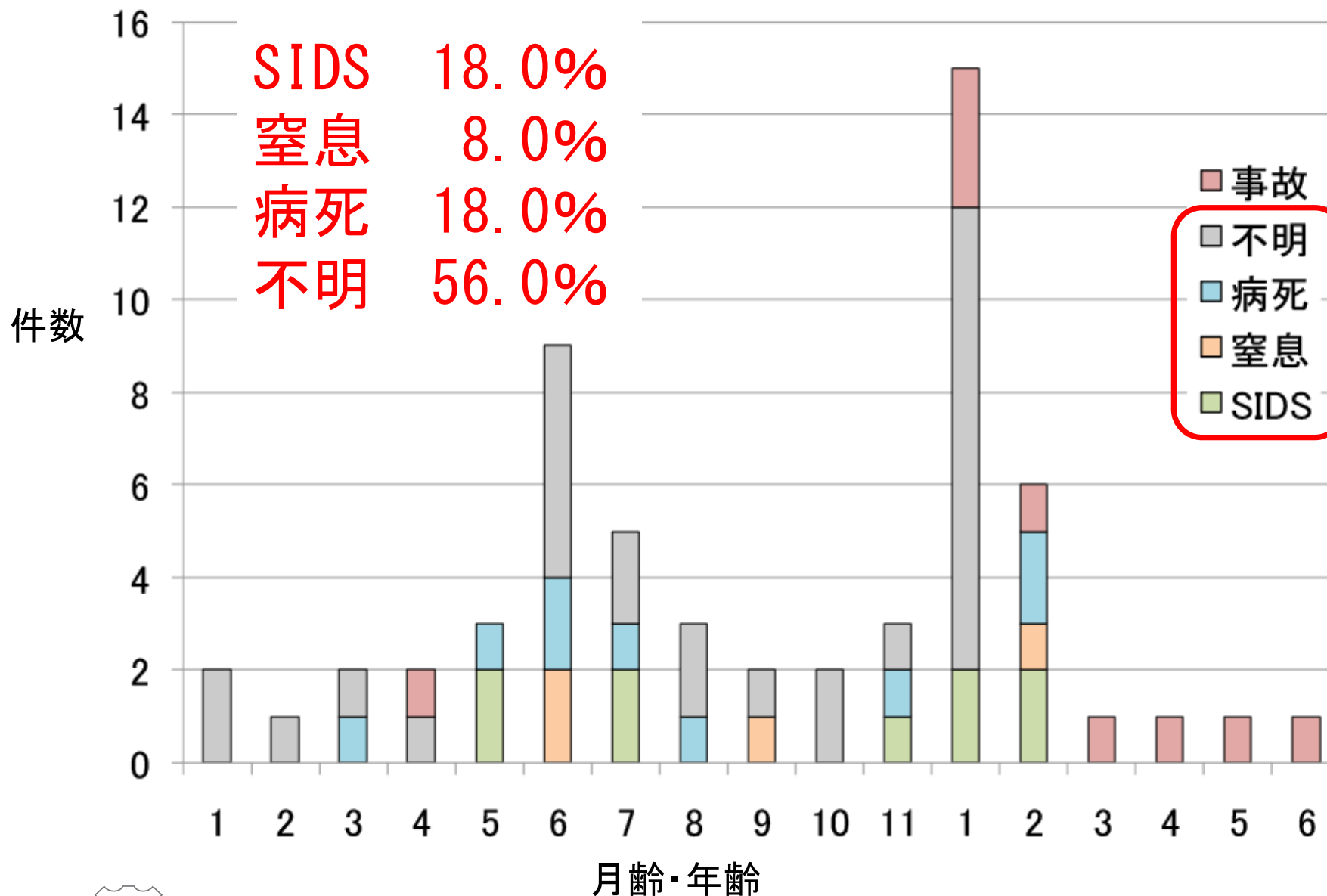


2. なぜ？



保育睡眠中の突然死

2008年～2012年 50件



Sudden Infant Death Syndrome

乳幼児突然死症候群

※SIDSは窒息事故ではありません

※SIDSは未だ科学的な解明には
至っていません

SIDSの定義

それまでの健康状態および既往歴からその死亡が予測できず、しかも死亡状況調査および解剖検査によってもその原因が同定されない、原則として1歳未満の児に死亡をもたらした症候群

※SIDS診断ガイドライン第2版/厚生労働省SIDS研究班

SIDSの病態

睡眠時に起こる無呼吸状態からの
覚醒反応の遅延によって起こる

一般的な危険因子

うつ伏せ寝 3倍

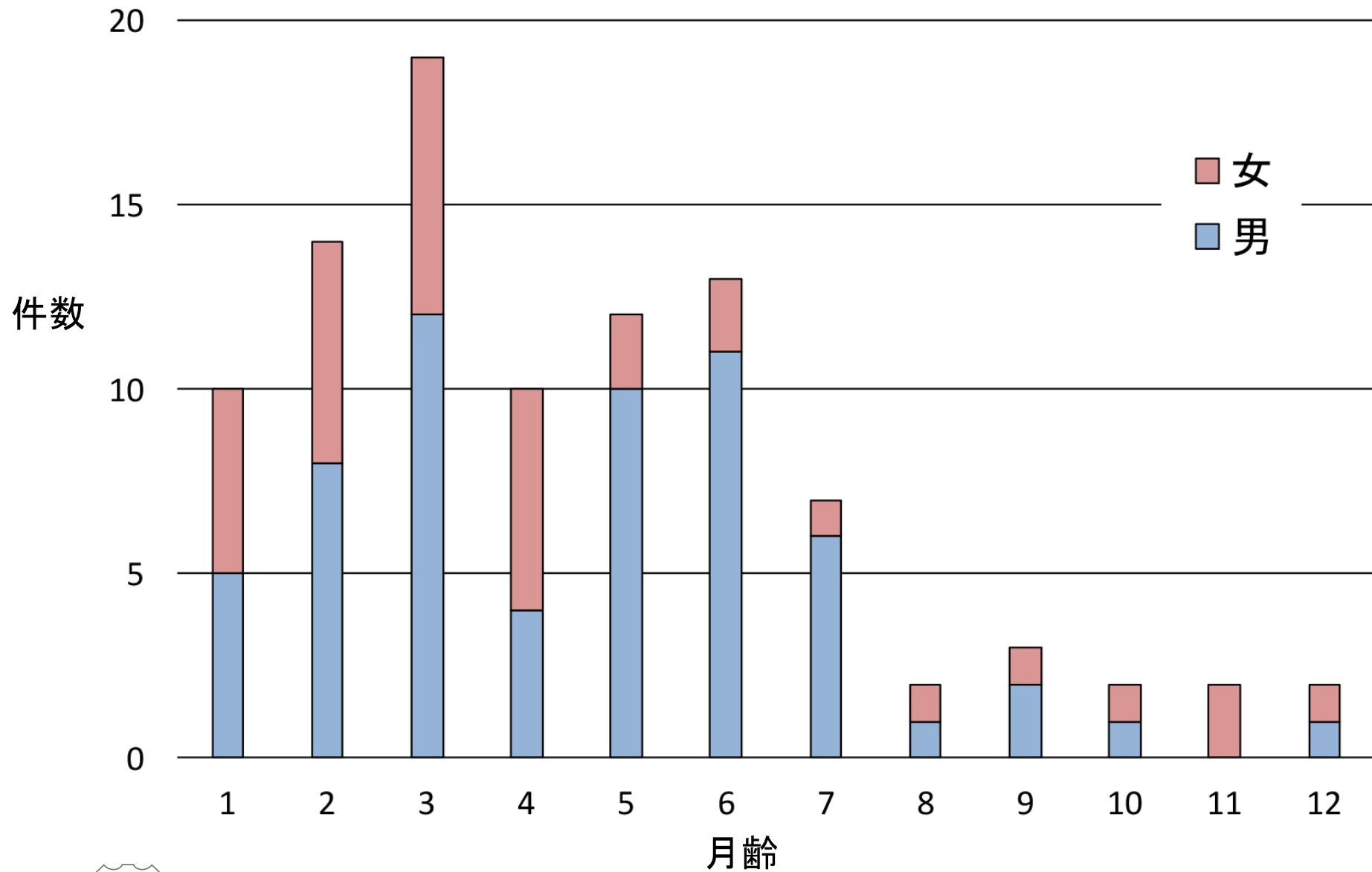
人工栄養 4.8倍

両親の喫煙 4.7倍

暖めすぎ(うつ熱)

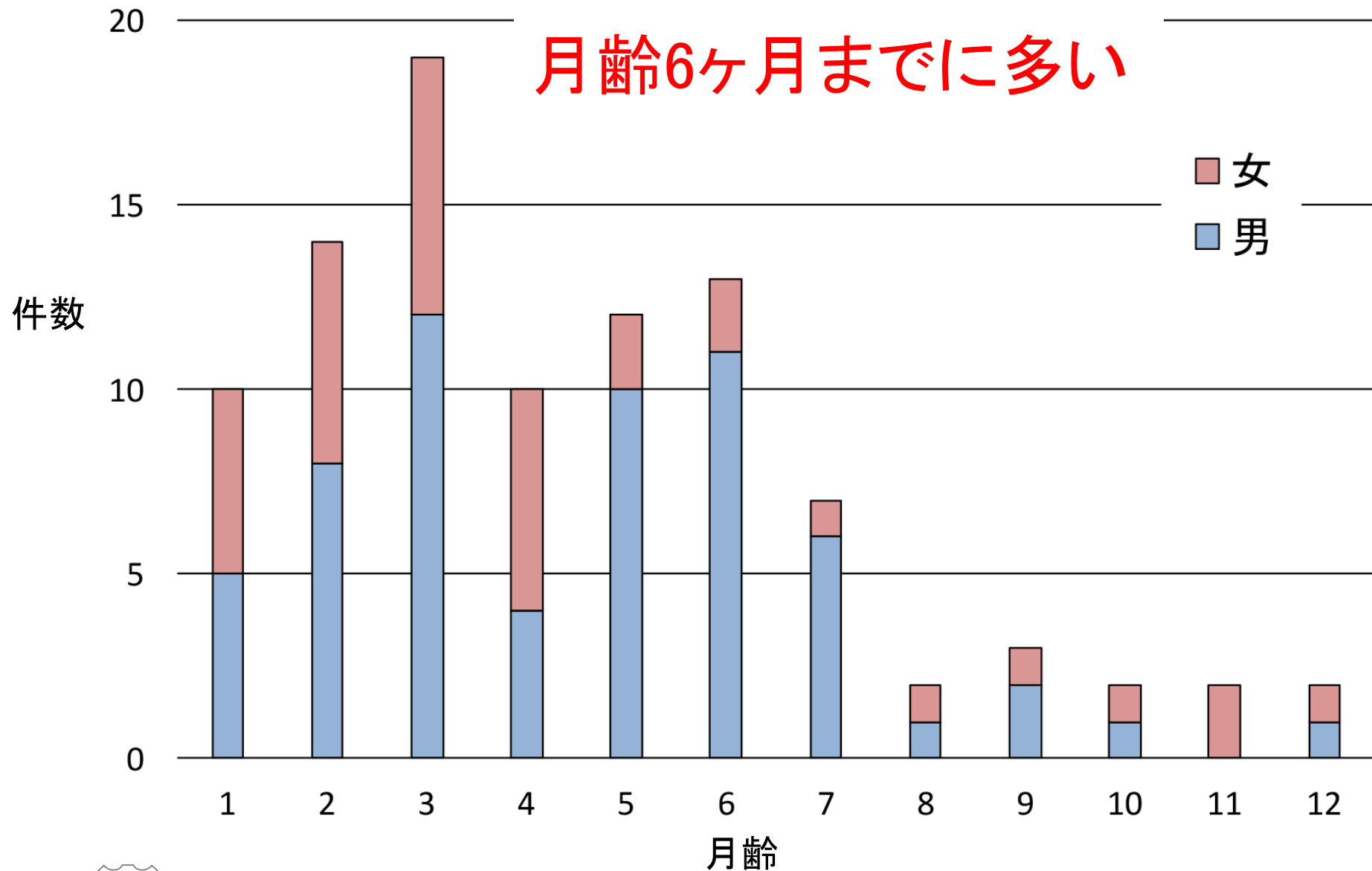
SIDS (月齡別)

2015年 合計96人



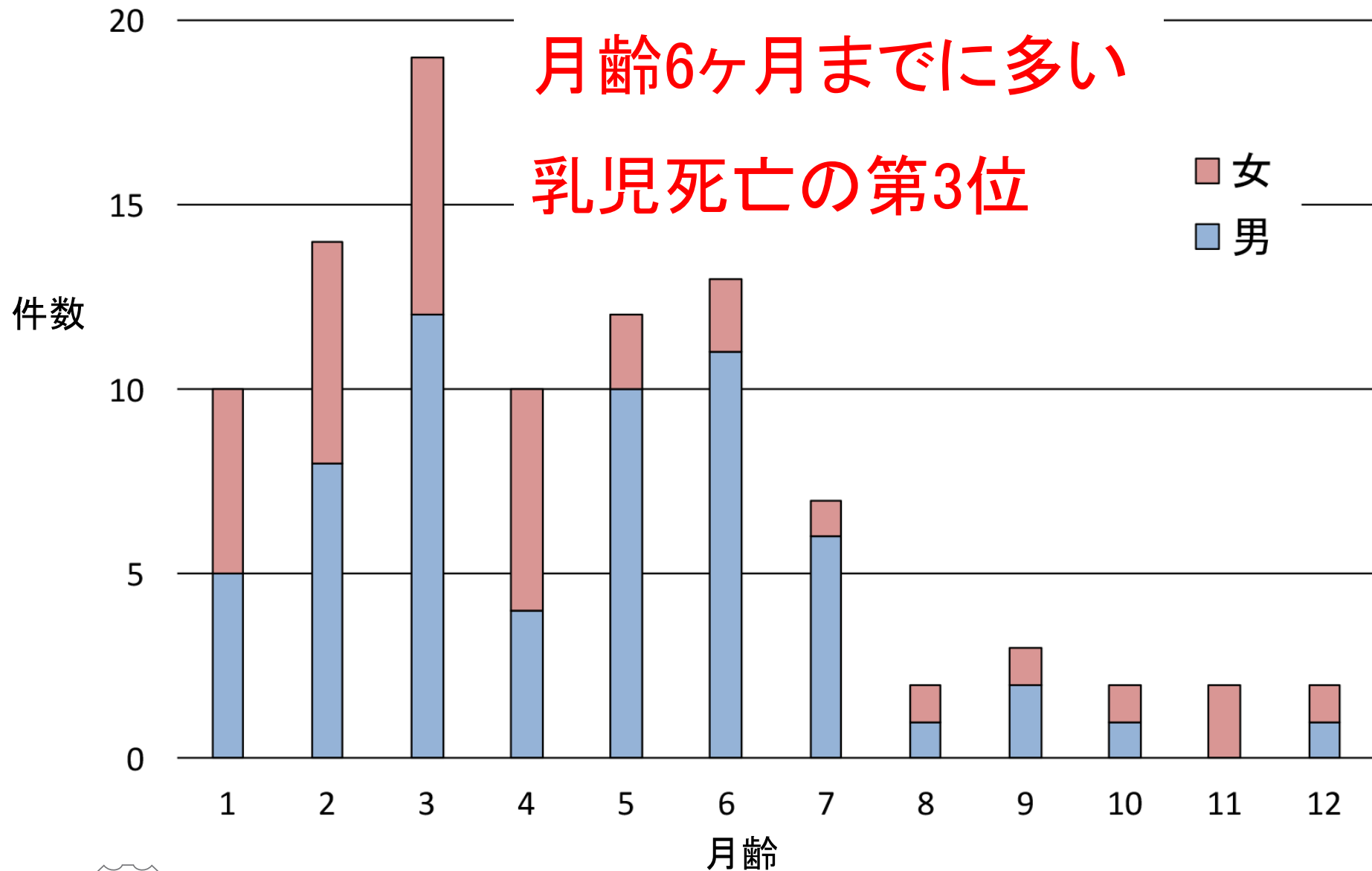
SIDS(月齡別)

2015年 合計96人



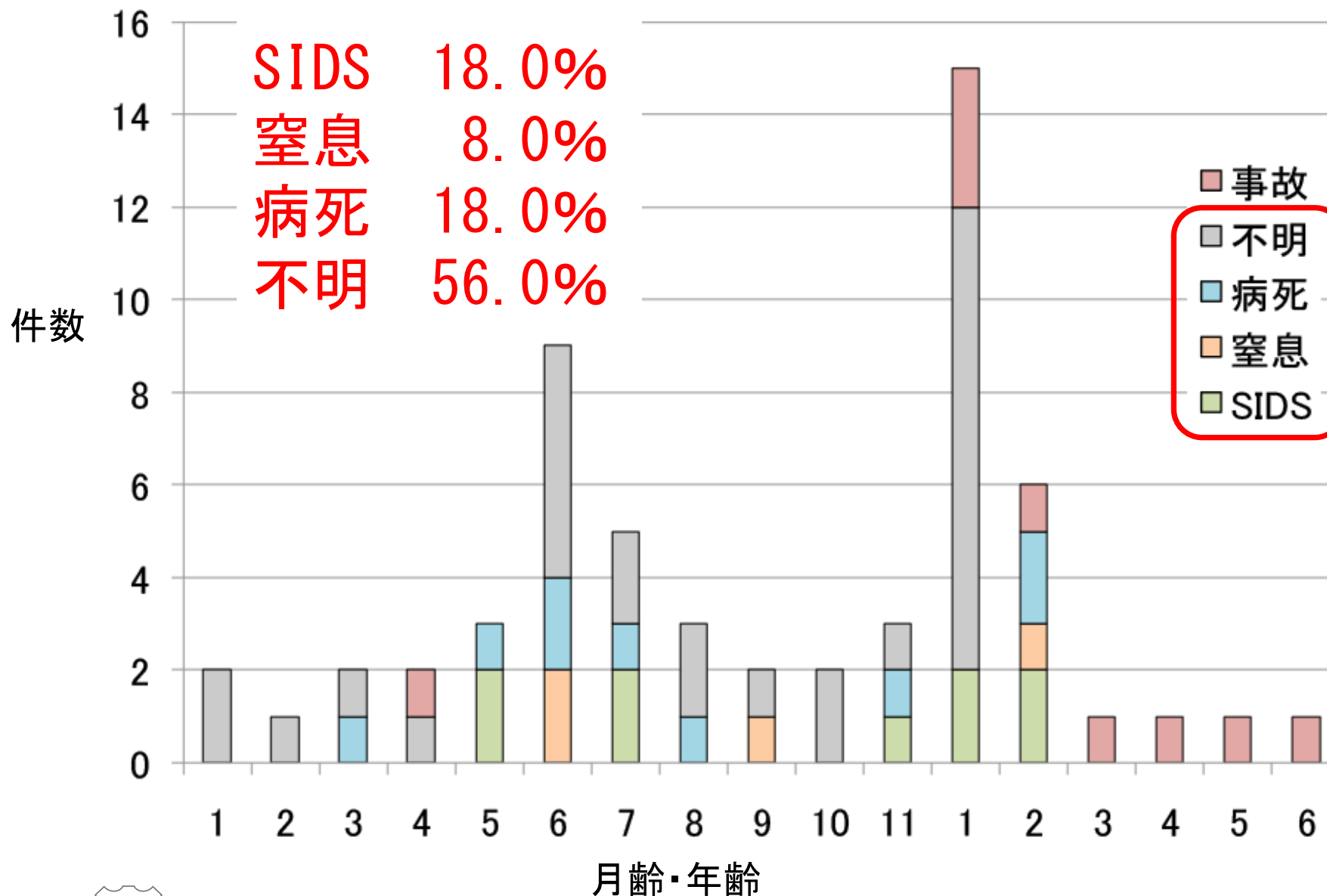
SIDS(月齢別)

2015年 合計96人



保育睡眠中の突然死

2008年～2012年 50件

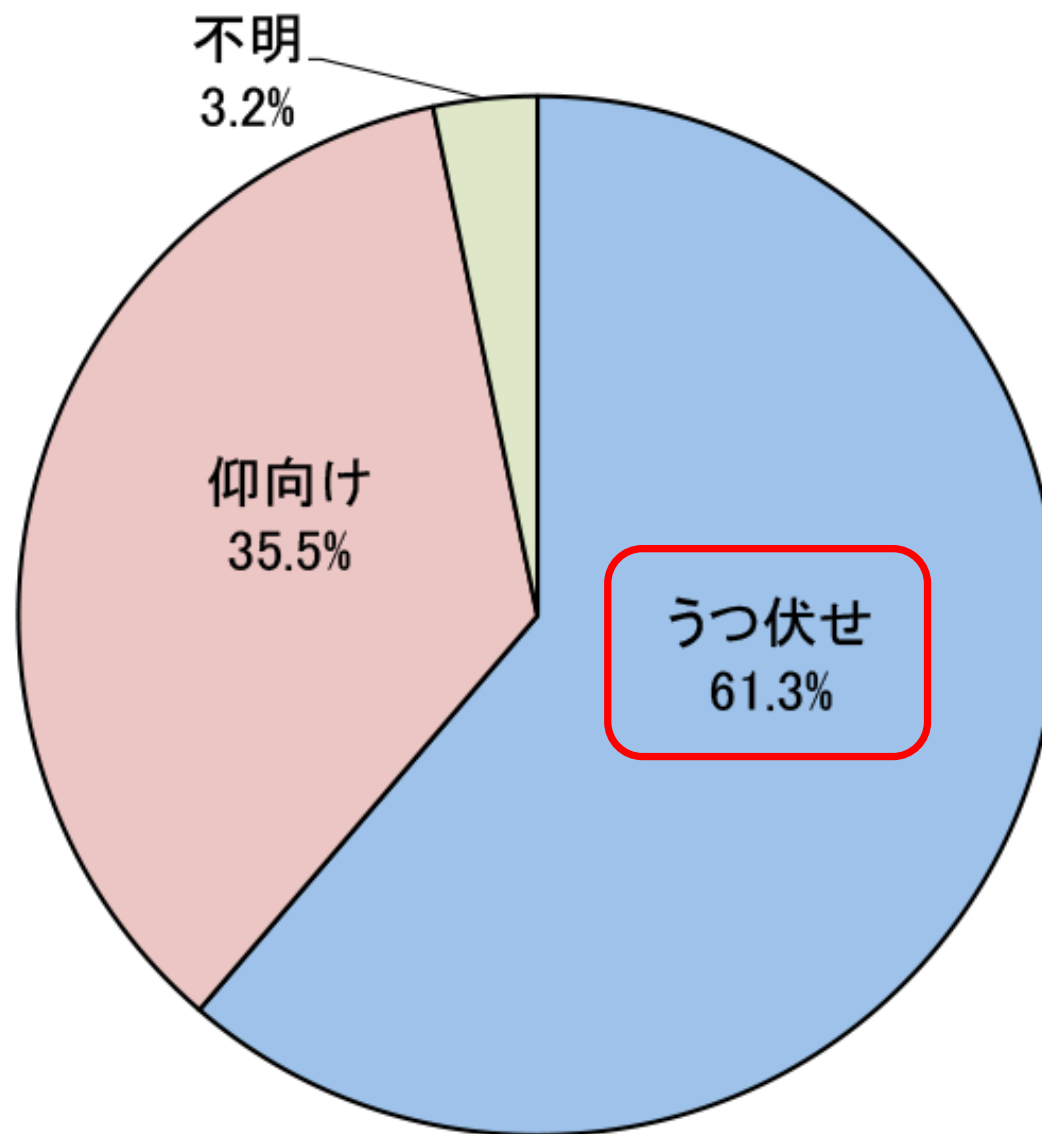


保育睡眠中の突然死

乳幼児の保育睡眠中に
突然死が起こる状況は
SIDSとよく似ています

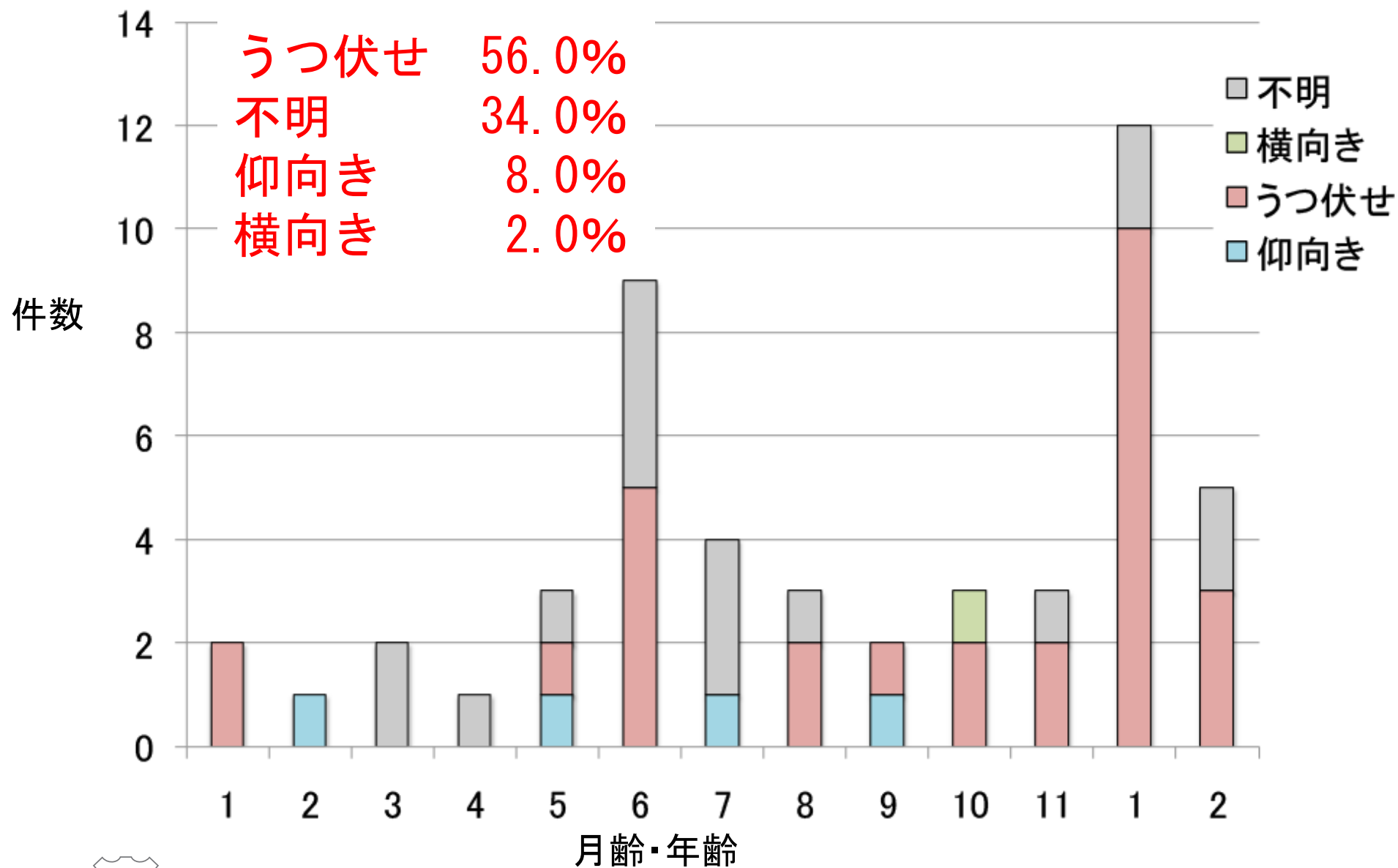
保育中のSIDS: 発見時の体位

n = 31



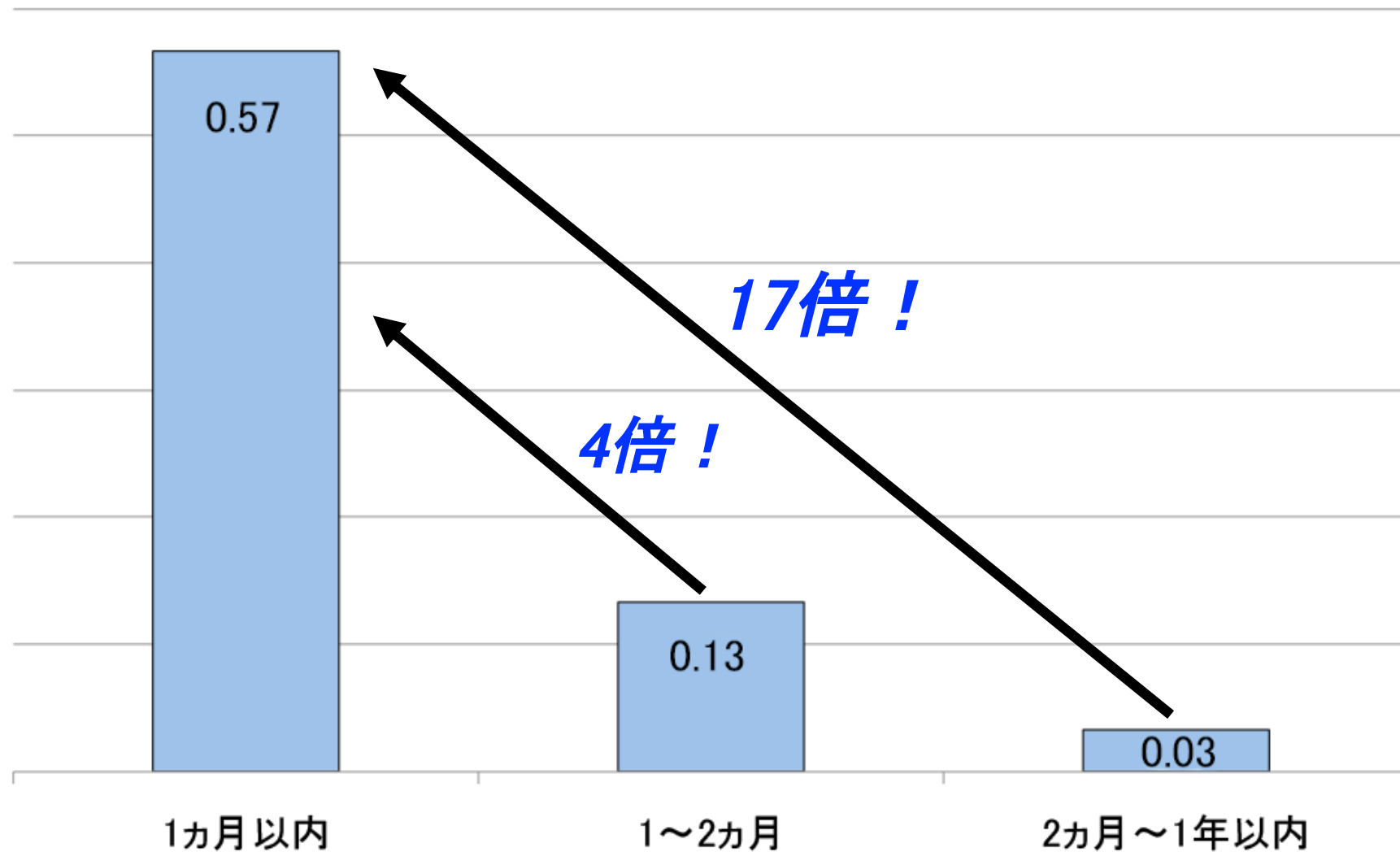
保育睡眠中の突然死：発見時体位

2008年～2012年 50件



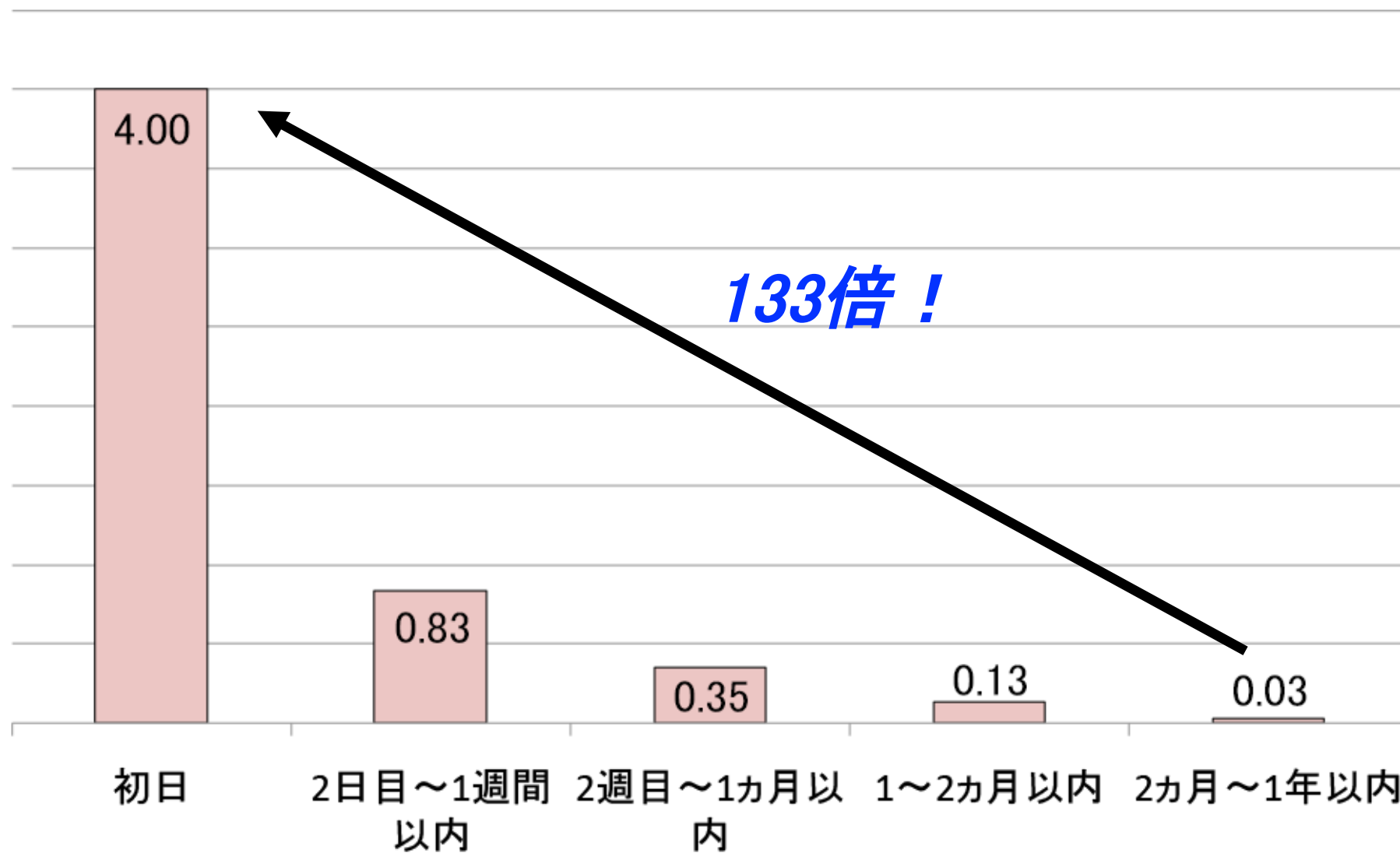
保育中のSIDS: 預かり初期の危険性

n = 31



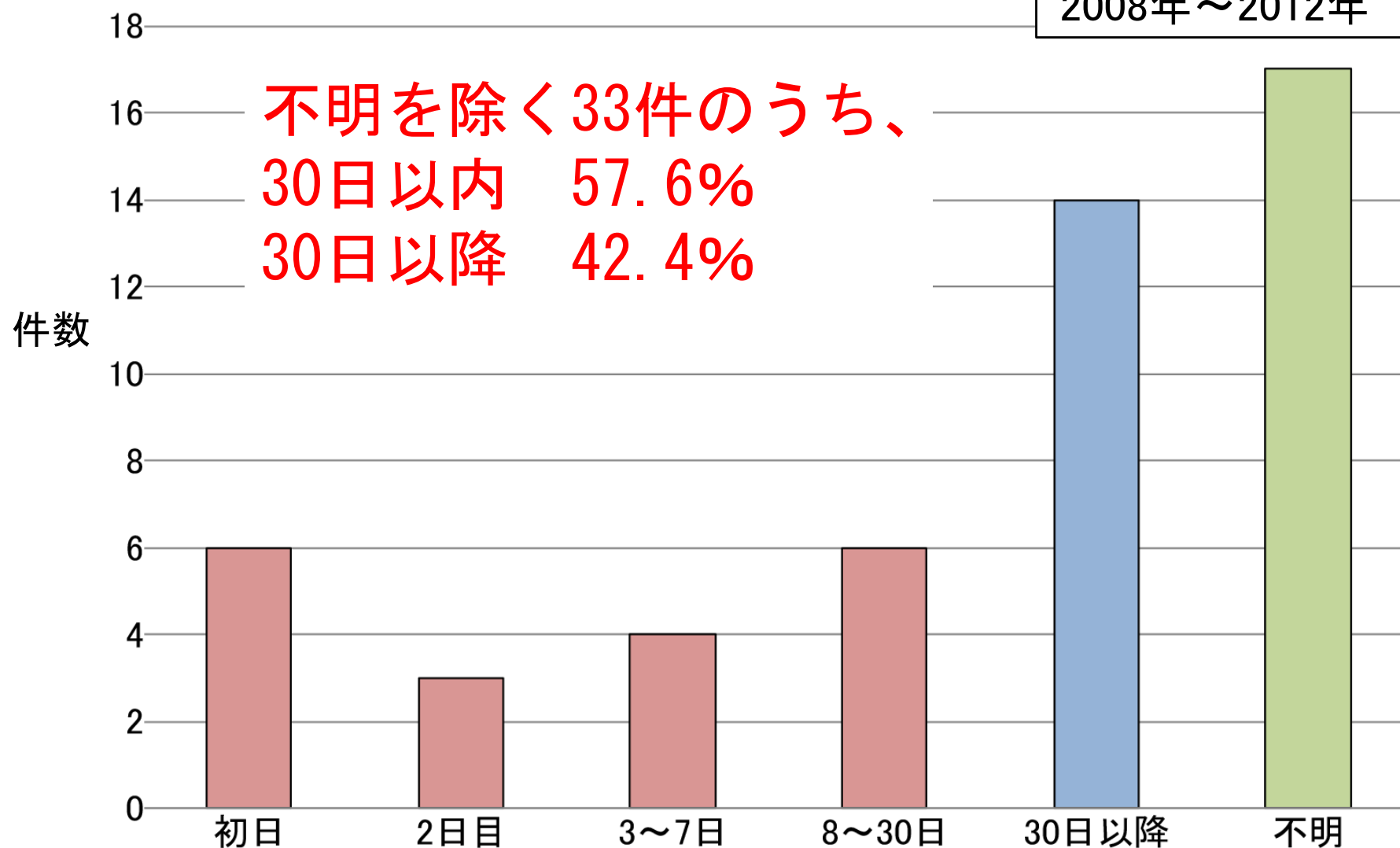
保育中のSIDS: 預かり初期の危険性

n = 31



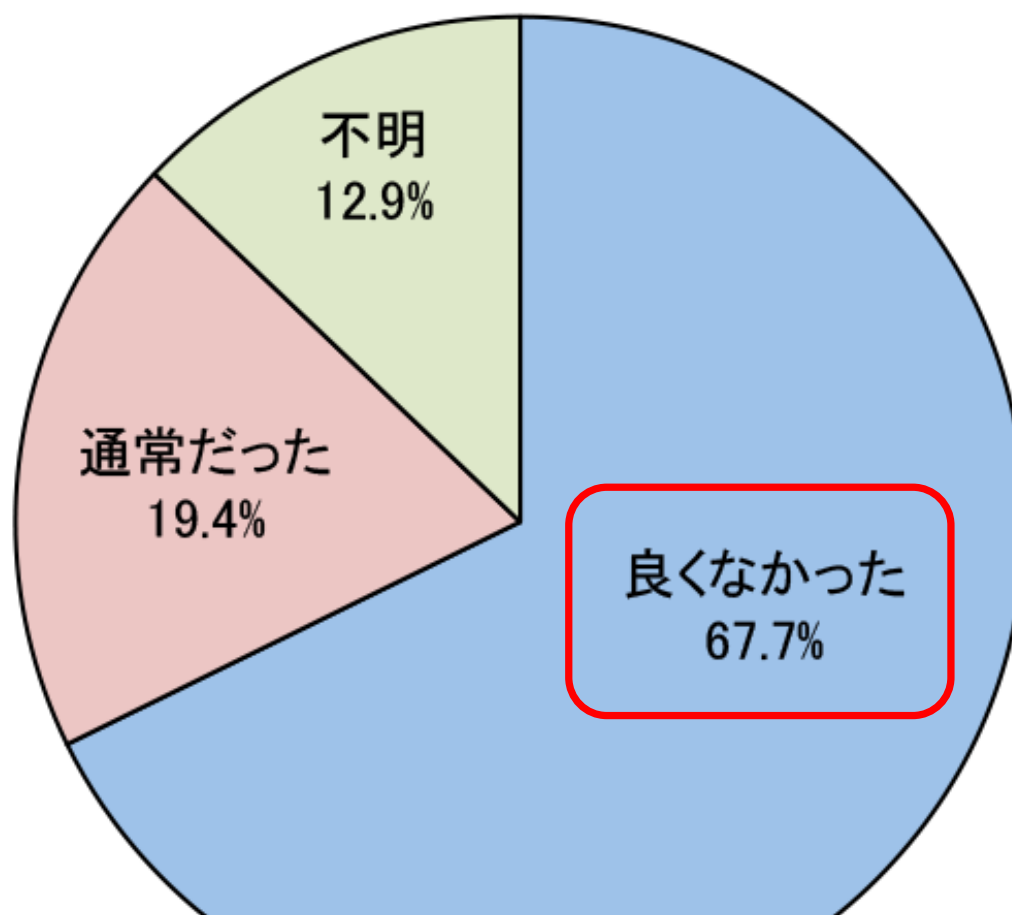
保育睡眠中の突然死：預かり初期の危険性

2008年～2012年 50件



保育中のSIDS: 発生当日の体調

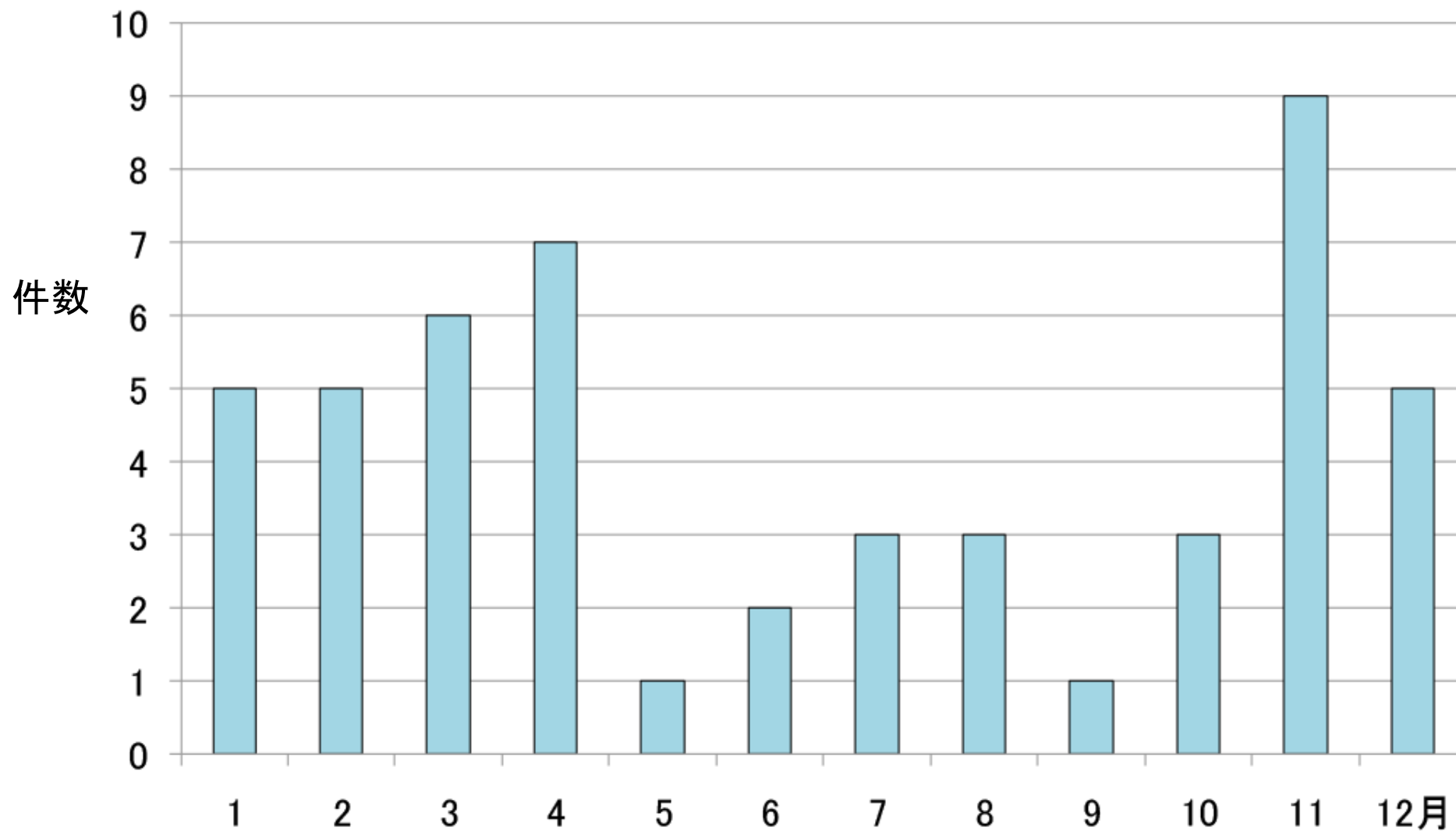
n = 31



微熱がある、ミルクの飲みが悪い、食欲がない、軽い風邪のような症状、機嫌が悪い、よく泣く、元気がない、何となくいつもと子供の様子がちがう

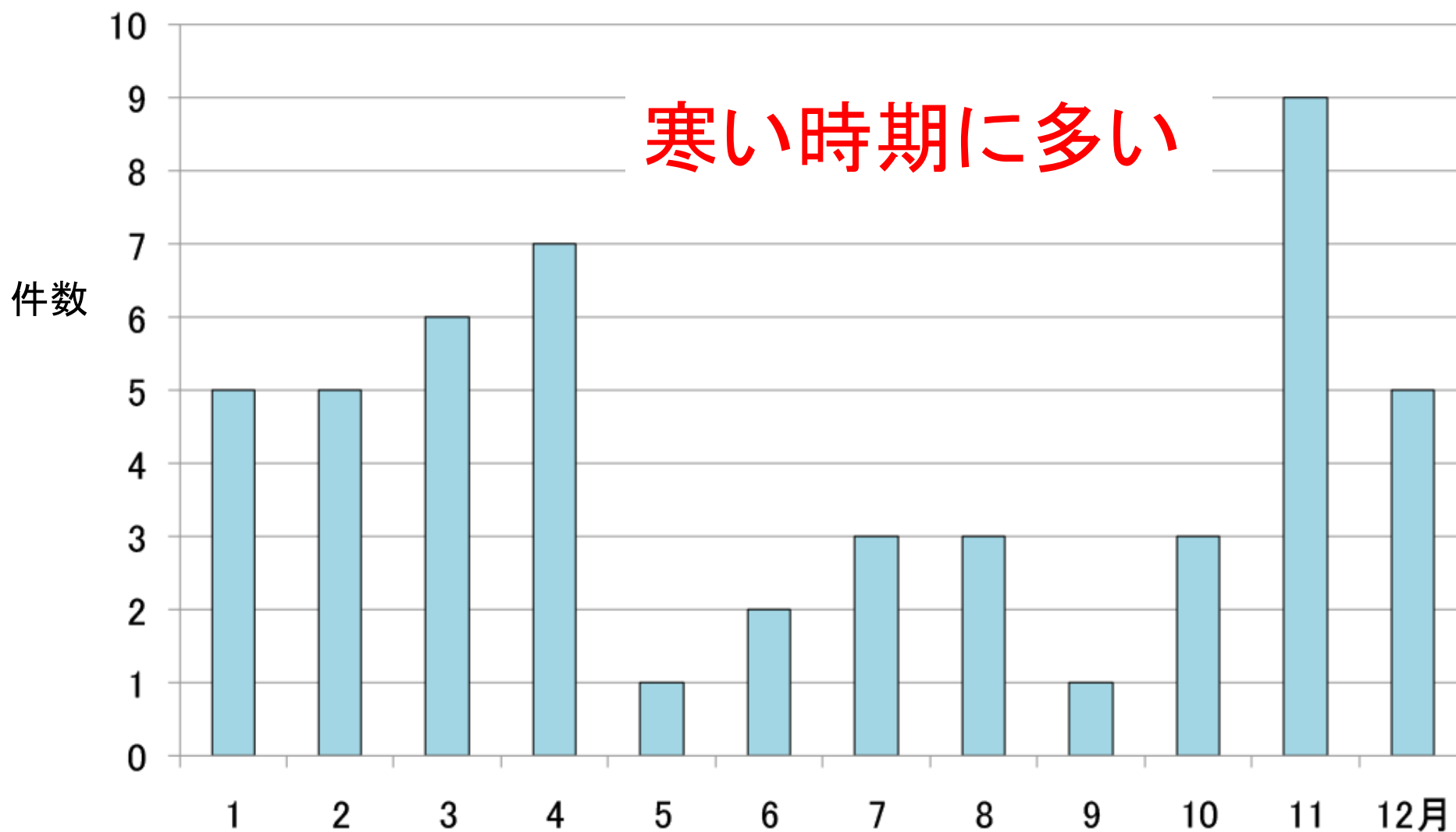
保育睡眠中の突然死：月別人数

2008年～2012年 50件



保育睡眠中の突然死：月別人数

2008年～2012年 50件



保育睡眠中の突然死：月別人数

2008年～2012年 50件

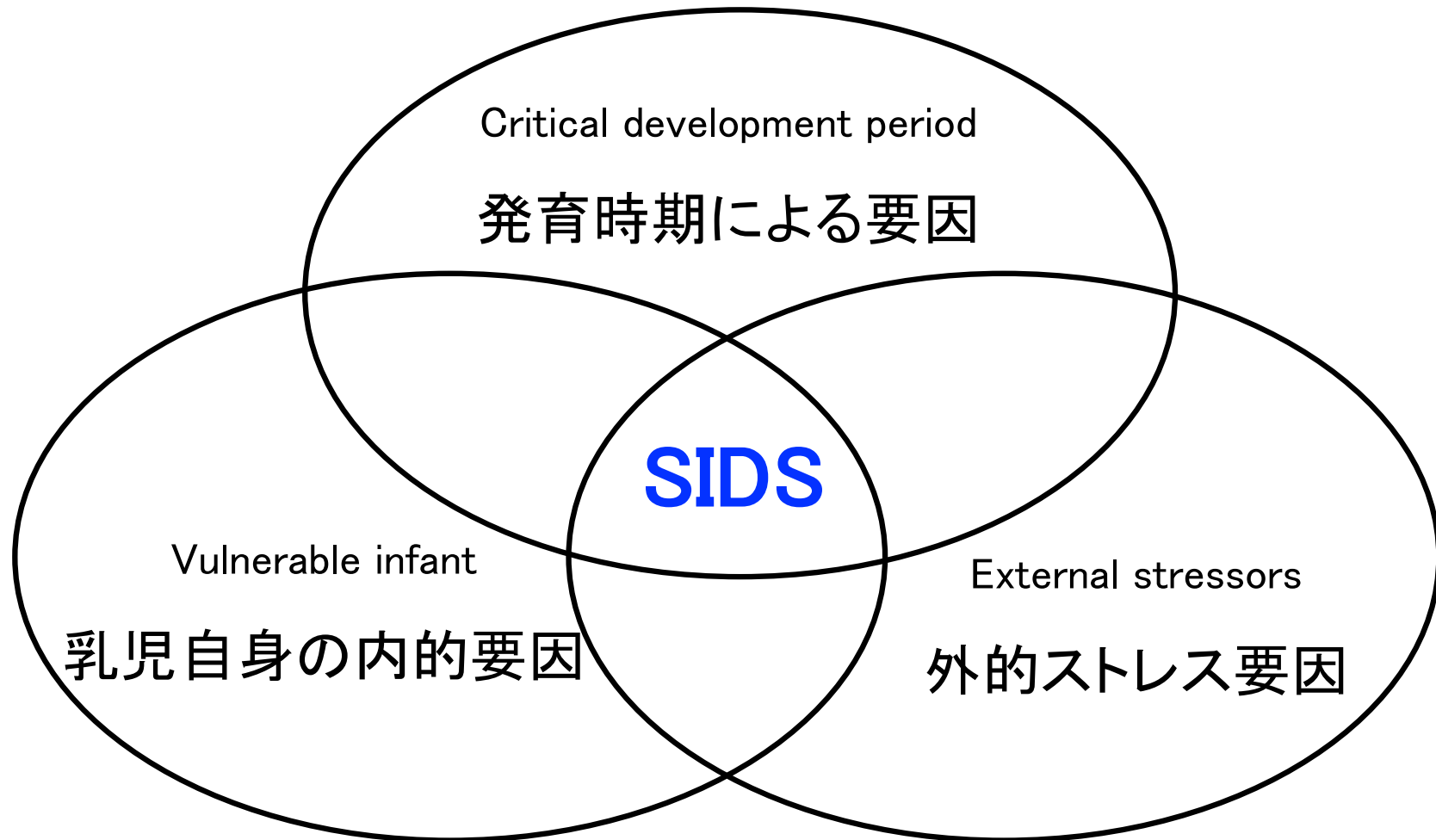


保育睡眠中の突然死

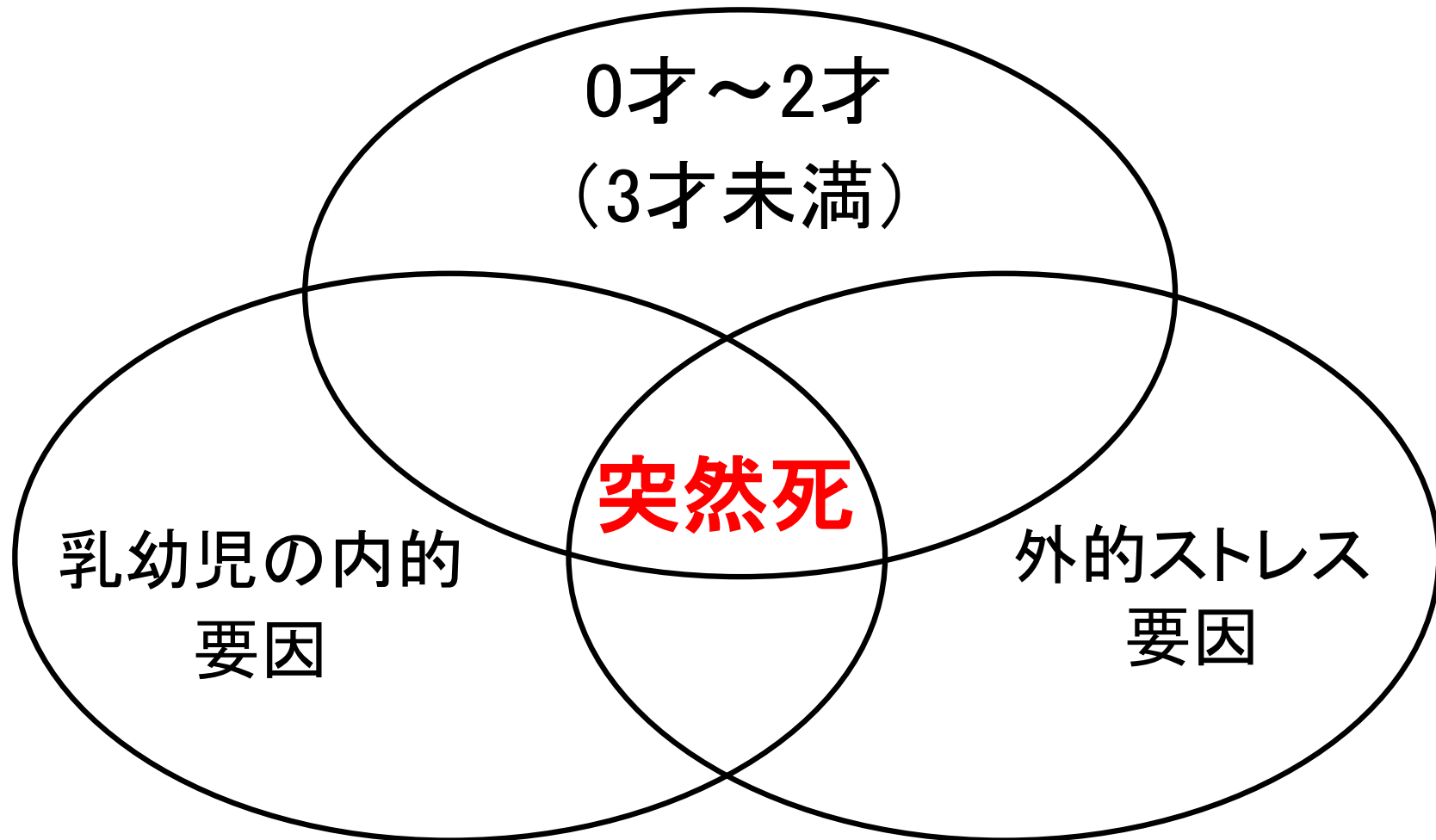
乳幼児の保育睡眠中に
突然死が起こる状況は
SIDSとよく似ています

Triple Risk Model

三つどもえのSIDS要因



保育睡眠中の突然死に置きかえると・・・



保育環境における 外的ストレス要因

- 預かり初期（初日、一週間、一か月）
- うつぶせ寝（睡眠中）
- 室温、寝具（うつ熱/睡眠中）
- 体調不良、疲労（感染症、休日明けなど）

あらすじ

1. 誰が？ いつ？

2. なぜ？

3. 突然死防止のために



3. 突然死防止のために

1) 睡眠時の体位に関する議論

AAP/アメリカ小児科学会の論文から

※横向き体位は推奨しない(換気が悪い、うつ熱、うつ伏せになりやすい、などの理由)

※「眠りから覚める能力は、睡眠中のストレスへの重要な防御反応であり、乳児が睡眠し続ける能力は必ずしも生理学的に有利なことではない。」

2) 睡眠中の安全管理

- 定期的な呼吸確認(何分ごと?)
- 確認の仕方は?
 - こどもに触れる(ゆるやかな刺激)
 - 仰向き体位の維持
- 寝具、室温管理

※睡眠中に実施すべきことを話し合しましょう

3) ストレスの軽減

- 預かり初めのストレスを軽減する
こどもの状況を考えた慣らし保育
- 感染症や体調不良を把握する

※具体的な方法を話し合しましょう

4) 乳幼児の心肺蘇生を練習しましょう

心原性心停止 (心臓発作など、成人に多い)

血液中に酸素が残留、心臓がけいれんしている

→ただちにAEDを準備し心肺蘇生を開始

心肺蘇生は圧迫が重要になる

呼吸原性心肺停止 (窒息、溺水、小児)

血液中に酸素がない。(心臓は悪くない)

→ただちに心肺蘇生を開始し、低酸素を改善する

迅速な人工呼吸との組み合わせが必要

※睡眠中の突然死では人工呼吸を省略しないことが重要

5) 保育関係者、保護者サポート情報提供先

NPO法人 SIDS家族の会 <http://www.sids.gr.jp/>

託児ママ マミーサービス <http://mommy-sids.com/>

※保護者に対する情報提供をしましょう

- ・上記サポート情報
- ・睡眠中の突然死のリスク
- ・119番による口頭指導

あらすじ

1. 誰が？ いつ？
2. なぜ？
3. 突然死防止のために



研修の目的

保育中の死亡がいつ、どのように
起きているか？

⇒3才未満、睡眠中

リスクを減少させる方法は？

⇒睡眠中の管理、外的ストレスの軽減

保育環境における 突然死を防ぐために

プログラム開発： 伊東和雄（有限会社マスターワークス / LSFA本部）
開発協力： 中村徳子（託児ママ マミーサービス）
森 俊英（LSFA乳幼児応急手当普及会）
プログラム運営： 保育中の突然死予防研修推進会



お疲れさまでした！